

**(議長)**

政策推進課所管の予算ならびに関連議案について補足説明を求めます。

「政策推進課長」

**(政策推進課長) (補足説明)**

それでは政策推進課の所管分の予算をご説明申し上げます。予算書は43ページの文書広報費。それから45ページの企画費。53ページの統計調査費になるわけですが、あの予算資料。予算資料。薄い綴りでございますが。こちらで説明をさせていただきます。まず予算資料の7ページをお開き下さい。ここが企画関連になります。予算資料の7ページです。上からNo.15。予算資料の7ページのNo.15。ここが文書広報費でございます。町の広報の印刷、編纂、配布にかかる経費でございます。前年度と大きく変わってはございません。

次に、同じくこの予算資料7ページのNo.29から、企画費の主な事業が記載されております。

1つめは特産品開発。販売促進対策推進。567万9千円でございますが、これは重点施策の1つである、地域資源を活用した産業振興として、この事業費は過疎基金を使つての事業の展開でございます。事業の中身を少し言いますと、1つめはトヨタ関連企業訪問経費や、特産品開発など、販路拡大の経費が、約210万ほど。210万ほど。

それから2つめは、緑の分権改革調査事業の継続推進でございます、農産物等の商品開発、これが200万程度あります。

それから3つめとして、開陽丸周辺賑わい再生事業というタイトルになってございますが、アンテナショップ運営への補助による支援。これが、約150万。こういう3つの事業展開でございます。

それから2つめ。予算資料No.30の情報発信強化対策。190万でございますが。町のホームページのリニューアル経費でございます。現在の町ホームページは、平成14年頃にできたというふうに聞いてございますが、約11年位経過してございます。行政情報の発信元でございますけれども、インターネットを見て、観光客が訪れるような時代背景からも、今回町のホームページをリニューアルすることというふうに決めました。今言いました新幹線開業を見据えた観光対策とも連動してございますけれども、町のホームページ内を、リニューアルし、あわせて観光情報の整理、見直しをするなど、情報発信の強化を図る目的で、計上させていただきました。その財源は、ふるさと応援寄付金の積立基金の中から、190万を取り崩して、財源に充てるものでございます。

3点目でございますが、No.31の市街地活性化検討。300万であります。これは、執行方針にも記載のとおりであり、あの大門議員の一般質問にもご答弁申し上げましたが、新幹線開業に向けた観光対策を図る上でも市街地の空洞化などの課題も多く、専門家など知恵を借りながら方策を検討する予算を計上したところでございます。以上が前年度と大きく変わった事業内容でございます。そのほか、予算資料No.33以降に記載のとおり、前年度のように乗り合いタクシー、開陽丸青少年センターの補助。協働のまちづくり補助。特別職の、各種要請や陳情などの行動経費。さらに、今さらに付け加えますが、乗り合いタクシーにつきましては、地域理解が大前提になるわけですが。私共担当課としては、デマンド方式に切り替えたいな、という考えも持っております。年度途中になるかもしれませんが、早い段階に予約制による運行を地域におもむいて相談協議したいというふうに考えております。

歳出の最後になりますが、予算資料8ページNo.64の統計調査総務費は、各種統計調査の委託事業となっております。変わった点はございません。あと、歳入については特別変わった点はございませんので、省略させていただきます。最後に予算の説明でございますが、あの予算付けはございませんけれども、3月末までにJR江差線廃止の合意形成がなされる予定であります。そのため25年度の、早々からは、代替バス運行の具体的な協議が3町でスタートするわけですが、運行本数、時間、経路、観光振興含めた、議論。さらには駅舎跡地の問題など、JR北海道と、この江差町の個別協議の業務を含めて、相当タイトなスケジュールで、あの大きな仕事になっていくだろうなというふうに思っております。

あともう1点。関連議案。1つ、説明で終わります。議案集の177ページご覧ください。議案第31号です。議案集の177ページ議案第31号江差町過疎地域自立促進市町村計画の変更であります。昨日あの総務財政課長から過疎基金条例の制定で、提案しておりますが基金条例と関連しまして、江差町の過疎計画に、ソフト事業を掲載し、起債事業と変更、計画変更するものであります。過疎計画の変更内容であります。177ページ、178ページに記載のとおり。過疎債対象のソフト事業として、ふるさと特産品開発。それから企業誘致、および雇用奨励。子供医療費、助成。医師確保対策。脳疾患救急搬送。この5つの事業を過疎特別対策事業として、ソフト事業に追加、変更するものであります。以上、関連議案と企画費にかかる、予算概要をご説明いたしました。ご審議、議決方、よろしく願いいたします。以上でございます。

**(議長)**

以上で説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

(議長)

「小野寺議員」

(小野寺議員)

はい。3つお聞きします。1つはこの間ずっと聞いております、総合交通対策。体系といいますか。今、鍼川方面の部分についてはデマンドと、いうことで。これはこの間、言っていた部分についての検討の1つの方向性なのかなと聞きました。ただ、私は課長この間論議しているとおり単に向こう、向こうってごめんなさい。函バスの廃止した部分の対策だけではなく。現行の函バスの部分だとか。商工でやっています、買い物バスだとか。昨日もちよっとありましたが、教育委員会の通学バスだとか。おしなべて、いわば移動、人の移動に関して個々バラバラな、部分をもう少し、トータル的に総合的にやれば、もしかしたらもっと経費も浮くかも知れない。もしかしたら利用者にとってもより便利性が向上するかもしれない。という意味でこの間やってきたことについては課長も理解していただいていると思うのです。それで、結果的には一歩前進というか、デマンドに関していえば一歩前進なのかもしれませんが、しかし。まだバラバラということについては変わりないです。で昨日私ちょっと教育委員会で、聞いたこの教育委員会も引き続き載っているから、あのどういう考え方で出ているのかよくわかりませんが、スクールバス、の効果的な活用について町との検討を継続することということも含めてですね、買い物バスは商工でも取り上げようと思っております。改めてトータルとしての総合交通体系対策を今どのように新年度考えていらっしゃるか、ひとつお聞きしたいと思います。

2つ目。町長の執行方針でも大きな目玉の1つ、新幹線対策。これある意味では企画サイドの部分と、それから商工観光の部分。2つに大きくいうと分かれていると思うのです。ただ、トータルとしての新幹線対策っていうのはどこなのかと。昨年、担当新幹線担当といいますか、係というか。あの、配置して、それはさきほど説明したことも含めて担当なのかもしれませんが、トータルとしての新幹線の、総合的に見ると情報発信も含め、さっきありますよね。でもじゃあ商工観光との、まあ棲み分けというか連携というか、もう少しそこら辺まごつくところがあるのです。前回の、新幹線開業に向けた何でしたか各団体との意見交換でしたか、あれ私てつきり、企画の部門だと思ったら商工でやっていました。ということも含めて、そこら辺もし、ある程度見えるような仕切り、もしくは関連性教えていただきたいと思えます。これが2つ目。

最後、3つ目なのですが、さきほど開陽丸のことの説明がありました。で、この間委員会等々で色々論議ありますが、開陽丸そのもの、センターも、その

管理棟、船というかあの部分のいわゆる財団の、なんだ今一般財団。のそのものの運営と、それから今ふらっとといいますか。土産品というか。いわば観光土産というか。その売る部分ですね、とか今賑わいと。いう意味ではもっとトータルな部分。それで縦割りの部分がどうしてもありますね。これ、観光客というかあそこに行く人にとっては同じなのですよ。あそこで入館しようが買い物しようが、あの周辺で集おうが。そこがなかなか聞けばですね、縦割りの部分で、で、観光物産的なものが混合したらどんなふうに統一的になるのか、なども含めて私は、一体的な運営といいますか。あの周辺の活用も含めて、そこから辺、もう少し基本的な考え方をお聞きしたいと思います。以上3点。

**(議長)**

「政策課長」

**(政策推進課長)**

3点ございました。1つ目は総合交通対策の関係でございます。理事者の方からも私共年度早くに、指示も受けてございまして。この路線バス。スクールバス、乗り合いタクシー、買い物バスのこの効率的な運行を議題として24年度において実は4回、関係課長係長含めて4回協議を重ねました。まずそういったところで当然、効率化、どうするかという事なのですが、少し結論的な部分をこの4回の協議で出された部分の整理した部分を少しお話しますと、スクールバスを基本にしなければ、学校や父兄のこの理解を得られないのは当然でございまして、夏休み冬休み、それから学校行事なども考慮をされた実は運行になってございます。ですから、スクールバスの一般客の混乗は可能なのか、逆にスクールバスは廃止した場合には、路線バスに、生徒が混乗することができるのか。これ時間変更も含めてかなり、相当な高いハードルだっという事です。簡単にいいますと。それで、もう1つ買い物バスについてはこれあの昨年、24年度まで補助の絡みあったのですが、25年度からどうするかということの議論も実はしてございまして、商工労働の予算質疑のところ担当課長から説明あると思いますが、いずれにしても、買い物バスの運行については継続するという事は関係課の共通の認識でございますが。工夫等含めてこれはあの担当課長の方から何かあればあると思います。それであの今回今言ったスクールバスをこの路線バスとの混乗の部分だったり、同じバス路線でスクールバスが走っている。ですから、スクールバスを残すということになれば路線バスをまた廃止しなきゃならないという。こういうダブりの運輸局の縛りもありまして。これらは色々と、かなり時間を要するだろうということで、今当面できることについては、いわば小野寺議員からも決算委員会等でも指摘ある、この空

白地域のいわば乗り合いタクシーの部分について。予約制でやることで、金額は大きくないのですけれども、絞り込みできる。ただし、今あの一往復ですから、これらのバスの接続、小黒部のバスという部分もあるので、今のまま予約ってことになればこれなかなか地域理解も難しい点もあるので、もう少し2往復にすることで逆に予約制にすることでまた絞り込みできる。これは地域と、議会終わった後4月中には、地域と色々相談して地域理解を大前提含めて、さらには公共交通会議にかけなければならないという案件になりますので、そういう段取りを踏んで、さきほど年度途中からでもスタートできればと。こういう思いです。

それから、新幹線対策についてのご質問です。江差町の場合新幹線対策のこの総合調整はもちろん政策推進課でございます。棲み分けをあえていいますと、新幹線対策のほとんどが観光対策ということでありまして。ソフト事業になるわけです。木古内や北斗のように駅ができるとなればハードの事業も絡んでくるわけですから。そういうソフト事業が中心になるということで、観光対策の部分は観光所管で取り組んで、あと交通問題や道路問題含めてこれは政策で、という。これは、今回の25年度の予算要求にあたってその前段で観光所管とは、私共と予算要求にあたって、色々議論を重ねながら、きちんと棲み分けの連携も含めてやっている。こういう現状でございます。いずれにしても、新幹線対策は観光だけではないのですけれども、およそソフト事業が中心になるというかたちでそういう棲み分けをしたかたちでやっている、ということなんです。

それから開陽丸センターの一体的運営というお話です。議員は、周辺一体のことを、指しているだろうというふうに思いますが。いうまでもなく、開陽丸のそのものが財団そのものが責任を持って運営していくわけですから。まあ周辺の賑わいをどうするかという部分については、財団、それから役場、役場はどこになるかという私共になりますけれども。南埠頭の関係になると水産課でありますし、かもめ島の関係であると環境が所管ということになりますけれども。まあ、今私共予算でも提案しましたとおり、観光振興図る上でも、大事なエリアになるだろうと。このように思っていますので、開陽丸周辺のエリアですね。これについては、そういう認識を十分持つてございまして。新幹線開業まで、当面できる方策は何かについては、市街地空洞化の方策と一緒に検討してみたいと、このように思っています。以上でございます。

**(小野寺議員)**

はい、議長。

(議長)

はい、「小野寺議員」

(小野寺議員)

はい、大体理解いたしました。2点、お聞きします。まず最後の開陽丸の件ですが、そういう立場で検討してもらいたいと思うのですが。1点だけ、売店というか改築、改造して少し広げてぷらっとがはいて、それから従前の開陽丸の売店もこっちできてと。あそこ、ちょっともしかしたらどこかで聞いているのかもしれませんが。失言しているのかもしれませんが確認なのですが。あそこの全体の運営、あそこの売店の部分の運営主体、指揮命令系統といいますか。管理運営っていうかあそこの部分。開陽丸の、まあ今いる須藤さんのところの関わり合いがあるのかないのか、等も含めてちょっとあそこの売店の部分。あのスペースの部分ですね。それから今後あそこ引き続き何か新年度、ちょっと違った考え方で方向性があるのかないのか。も含めて合わせてお聞きしたい。あそこの部分ですね。

それから最後。総合交通対策で、わかりました。あの庁内で役場の中で相当検討していただいているということがわかりましたので、また、別の機会で色々聞きたいと思うのですが。1点。これは、非常に難しい問題で、1問目で言わなかったのですが。多分、土俵にはのっていないかと思うのですが。道立病院の通院関係、これは実は最大の、私はです、町民にとって、最大の足の移動、確保。ということからいうと通院バスも、当然総合交通体系、公共交通部門も含めて、私は町として検討しなければならないと思うのです。これは、確かに福祉サイドかもしれませんが。けれど、やはり交通体系ということで、この通院バスに関して、もしかしたら町長副町長かもしれませんが、検討している部分があるのかないのか。もしくはその点についてのお考えも含めて、最後にお聞きしたいと思います。

(議長)

「政策課長」

(政策推進課長)

売店の運営主体の関係です。ぷらっと江差ですね。議員も知っているとおりこの3月までいわばこの補助事業というか、委託事業で、国の事業でああいう店をオープンできました。で、開陽丸の売店と、ぷらっとと混合で入っていると。で、新年度からは開陽丸の売店をぷらっとに吸収をして1本化すると。こういう動きであります。1つ目の。

それから、今回の支援の部分については現在のぷらっとの24年度の売上実績をきちんと検証しながら、24年度の実績をもとに試算した結果、赤字になる部分含めてそれを支援するのが、予算の金額の中身なわけですけれども。これについては現在も商工会に再委託をしてやってもらっている部分であるものですから。25年度についても、商工会に責任を持って商工会から、あのぷらっとの運営と。こういうかたちになるわけです。それで、当然開陽丸の中でやるわけですから、色々なイベント含めて、開陽丸と、タッグを組んで、様々な客寄せの色々なかたちをとらなければならないだろうと思いますので。だからといってうちは、補助して終わりということではなくて、この補助の支援の部分については、町としても当然新たな商品開発だとか含めて、新たなメニューの開発含めて、それらは、町の立場で、指導、協議含めて、ですから町、商工会、開陽丸っていう当面この売店についてはそういうかたちの中で、きちっとやっていきたいと、このように思っています。

それから、総合交通対策で通院の、道立病院のお話ができました。現在も、町内だけで走っているバスではなくて、乙部からも来る、厚沢部からも来る、上ノ国からも来る。そういう沿線と繋がったバスが非常に多いわけです。道立病院も高校もそうなのですけれども。ですから、今現在道立病院に限っての通院バスを検討するかという部分については、土台にあがってございません。議員のおっしゃりたい部分は意図としてちょっとわかりますけれども。付随してまいりますと、今JRがらみで、木古内からのバスの運行の関係も4月からはじまっていくわけですから、既存のバス路線の部分。さらには、そのバスと函館まで繋がる、今函館まで7、8本いっているわけですけれども、こういうバスの接続の関係やら、色々整理しなければならないバスの運行だけでもですね、かなりのタイトなスケジュールでやらなければならないと、こういう思いで今おります。はい。

**(小野寺議員)**

はい、わかりました。

**(議長)**

いいですか。はい、他に質疑希望ありませんか。

(「なし」の声)

**(議長)**

(他に) ありませんので、政策推進課の予算並びに関連議案についての質疑

を終わります。25分まで、休憩いたします。